

# 2022年度事業報告書

(2022年4月1日～2023年3月31日)

## 1. 概況

2022年度も従来通り、公益財団法人上原美術館として各種公益目的事業活動の推進を基本に運営を目指したが、今年度も昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の終息はみられず、展覧会や教育活動に影響があった。

当館では状況を鑑みながら展覧会、実技講座の開催、トークイベント、ワークショップなど、感染症対策を講じて実施した。

展示は継続事業となる仏教美術調査の成果を発表した特別展『無冠の仏像－伊豆・静岡東部の無指定文化財』、所蔵者との調査協力の成果にもとづいた特別展『梅原龍三郎と伊豆』、館蔵品の個々の魅力を紹介する『上原コレクション名品選』等を開催した。

今年度も引き続き学芸員が下田市をはじめとする文化財保護審委員や河津町史編纂委員会副委員長を務め、地域文化の保護に努めたほか、静岡県博物館協会事業推進グループの委員に参加し、県内の文化向上への貢献を図った。収蔵品や寺院調査にもとづく調査研究を引き続き実施し、講演や専門誌を通じて学芸員が研究発表を行った。

また引き続き美術館の安定的、継続的な事業運営を目指して施設保全等の中長期計画を実施した。

## 2. 上原美術館の運営管理(定款第5条第1号)

### － 2022年度美術館入館者及び収入実績

2017年のリニューアル・オープン以降、仏教館・近代館共通で、大人1,000円、学生500円、高校生以下は無料とした。

公益財団法人 上原美術館			
入館者数	入館収入	図録等販売収入	収入合計
12,166名	928万円	79万円	1,007万円

### [ 入館者内訳 ]

* 大人	11,245人
* 学生 (大学、専門生)	193人
* 高校生以下	728人

### 3. 美術品の展示及び公開(定款第5条第2号)

#### (1) 企画展

【仏教館・近代館共通】 上原コレクション名品選 きん ぎん すみいろ／船と絵画	
開催期間	4月29日(金・祝)～9月25日(日) [150日間] 出展作品数 80点 入館者数 4,221名
内 容	仏教館は新収蔵品の絵巻物断簡を初公開するほか、古写経を中心に展示した。近代館は船にテーマを当て、絵画に描かれる船や画家とのエピソードを紹介した。
【仏教館】 特別展 無冠の仏像－伊豆・静岡東部の無指定文化財 【近代館】 企画展 まなざしをみる	
開催期間	10月8日(土)～2023年1月9日(月・祝) [95日間] 出展作品数 79点 入館者数 4,362名
内 容	仏教館は開館5周年記念として、貴重な仏像であるにもかかわらず、いまだ文化財指定を受けていない仏像を紹介し、文化財保護を問う展覧会を開催した。近代館は画家やモデルのまなざしに注目した展示を行った。
【仏教館】 企画展 きれいなお経 かわいいお経 【近代館】 特別展 梅原龍三郎と伊豆	
開催期間	2023年1月26日(土)～4月16日(日) [86日間] 出展作品数 91点 入館者数 2,919名(2023年3月31日迄)
内 容	近代館は伊豆に滞在し多くの絵を描いた梅原龍三郎にスポットを当て、伊豆滞在中の作品や遺族に伝わる梅原の資料を紹介した。仏教館は新収蔵の古写経を中心に美しい料紙や愛らしい絵の描かれた経典を展示した。

#### (2) 教室生徒の作品展(※入場無料)

全教室の作品展をアトリエにて実施した。

教室名	開催期間[開催日数]
仏像彫刻教室	2月28日～3月4日[5日間] 出展作品数 30点 入場者数 67名

写経教室	3月7日～3月11日[5日間] 出展作品数14点 入場者数51名
デッサン・水彩画教室	3月21日～3月25日[5日間] 出展作品数24点 入場者数105名
日本画教室	3月29日～4月2日[5日間] 出展作品数21点 入場者数128名

### (3) 館外出品

国内で開催された2展覧会へ収蔵品の貸出を行った。

展覧会名	「没後50年 鏑木清方」 於：東京国立近代美術館・京都国立近代美術館
開催期間	3月18日(金)～5月8日(日) [52日間] 5月27日(金)～7月10日(日) [45日間]
貸出作品	鏑木清方《十一月の雨》、《築地川》
展覧会名	「ピカソー青の時代を超えて」 於：ポーラ美術館
開催期間	9月17日(土)～2023年1月15日(日) [121日間]
貸出作品	パブロ・ピカソ《科学と慈愛》

## 4. 美術品の収集、整理及び保管(定款第5条第3号)

### (1) 美術品の収集

本年度は、以下の作品を購入した。

購入作品	
作者名	作品名
不詳	紺紙一字宝塔法華経断簡(心西願経)
不詳	雲紙法華経断簡
不詳	善財童子絵断簡(善知衆芸童子)
不詳	大般若波羅蜜多経卷百四十二(荒川経)
アンリ・マティス	チュールスカートを履いて座るオダリスク
梅原龍三郎	ナルシース
梅原龍三郎	江ノ浦 残月
梅原龍三郎	パリス審判図
梅原龍三郎	富士山図
須田国太郎	下田港

須田国太郎	鷲
須田国太郎	卓上静物
須田国太郎	人体習作デッサン 2点
須田国太郎	滞欧記素描 3点
須田国太郎	菅茶山邸スケッチ 8点
安井曾太郎	楠のある風景
安井曾太郎	街の風景
安井曾太郎	桜と鉢形城址
鏑木清方	木母寺夜雨
鏑木清方	待乳夜雨
鏑木清方	初冬の雨
中村岳陵	立雛

本年度は以下の作品の寄贈を受けた。

受贈作品	
作者名	作品名
不詳	阿弥陀如来像
山本正道	旅の記憶

## (2) 美術品の整理及び保管

上原美術館では、引き続き温湿度や空気質、電力使用量のデータ収集分析等、館内の環境調査を専門家とともに実施し、美術品保存環境の維持に努めた。また、IPM(総合的病害虫管理)の考え方にもとづいた文化財害虫やカビの予防管理も行った。中長期計画の検討にもとづき、第三者による館内環境測定を実施した。

## 5. 美術品に関する調査研究及び研修会、講演会等の開催

(定款第5条第4号)

### (1) 調査研究

今年度は以下の寺院調査、実見を行った。

- ① 裾野市・茶畑浅間神社調査(6月24日)
- ② 小山町・小山薬師堂調査(7月11日)
- ③ 裾野市・光明寺調査(7月23日)
- ④ 伊豆の国市・国清寺調査(9月5日)

⑤ 三島市・成真寺調査(2月16日)

(2) 研修会の開催

本年度も仏像彫刻教室、写経教室、仏教美術講座、日本画教室、デッサン・水彩画教室の5教室を開催した。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、仏像彫刻教室、日本画教室は1回休講とした。写経教室は休講の代替として1回の通信添削を行った。

仏像彫刻教室		
講師[仏像彫刻家]	受講者	開催日時
岩松 拾文氏 大谷 文進氏	34名	毎月1回(年11回実施) 第3日曜日
写経教室		
講師[書家]	受講者	開催日時
山田 修也氏	22名	毎月1回(年11回実施) 第2日曜日
仏教美術講座		
講師	受講者	開催日時
当館学芸員(交代)	19名	毎月1回(年10回実施) 第2日曜日
デッサン・水彩画教室		
講師[現代美術作家]	受講者	開催日時
小野 憲一氏	13名	毎月2回(年22回実施) 第2・4水曜日
日本画教室		
講師[日本画家]	受講者	開催日時
牧野 伸英氏	14名	毎月2回(年21回実施) 第2・4火曜日

(3) 講演会の開催

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止策を行い、小規模でのトークイベントを2回開催した。

開催日 2022年12月11日(日)

会場 下田セントラルホテル 大会議場

演 題 私の好きな伊豆の仏像  
 講 師 久保沙里菜氏(フリーアナウンサー)  
 聴講者 100名

開催日 2023年3月26日(日)  
 会 場 下田セントラルホテル 大会議場  
 演 題 梅原龍三郎の生涯と芸術  
 講 師 嶋田華子氏(美術史家、梅原龍三郎曾孫)  
 聴講者 100名

(4) ギャラリートーク等の開催(会場：上原美術館)

ギャラリートーク 講師：当館学芸員

計 12 回開催 参加者合計 239 名

※感染症の拡大状況を考慮しながらギャラリートークを開催した。

参加者に定員を設けて感染症拡大防止につとめた。

(5) ワークショップ開催(講師：当館学芸員、小野憲一氏)

新型コロナウイルス感染症拡大防止につとめながら、以下の  
 ワークショップを開催した。

ワークショップ名	開催先	開催日	参加人数
はじめての日本画	伊豆の国市こども教室「あいキッズ」	8月29日	12名
日本画を描いてみよう	伊豆の国市市民講座	10月29日	20名
親子で色あそび	上原美術館アトリエ	1月22日 2月4日	20名

伊豆の国市こども教室、市民講座は伊豆の国市生涯学習課が主催し、当館へワークショップ開催依頼があり協力を行った。

(6) 外部からの依頼による講演会開催(講師：当館学芸員)

講演名	開催日時	聴講者
栄中日文化センターでの講演	4月3日	60名
SBS学苑での講演	5月25日	33名

河津バガテル公園での講演	6月11日	25名
下田市寿大学での講演	6月15日	58名
熱海・末代上人の会で講演	7月24日	40名
かなみ仏の里美術館でのボランティア ガイド向けの講座	10月11日、25日 11月8日、22日 12月5日	15名
下田市史講座での講演	10月30日	47名
河津町谷津区での講演	12月4日	30名

#### (7) 動画による教育普及活動

日本画教室講師の牧野伸英氏に協力をいただき、日本画の描き方を紹介する動画を YouTube 上にて公開した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対面ワークショップが開催できない中、当館の教育普及活動の新しい取り組みとして行った。

#### 6. 美術品に関する資料の収集、保管及び公開（定款第5条第5号）

調査研究、公開を目的に美術関係図書や美術関係資料等、また仏教美術、伊豆半島の地誌を主体とした調査研究に関連する書物を収集した。

- ・本年度の収集図書数 1,334 冊（仏教 1,162 冊、近代 172 冊）

#### 7. 美術品に関する解説書等刊行物の作成頒布(定款第5条第6号)

	内容
年間展示予定	令和4年度の上原美術館展示案内を作成。 1年間を通して開催する展覧会と当館の紹介を行った。
ポスター等	展示会毎にポスター・チラシの作成頒布。
美術館だより	年4回発行。 (1回約4,000部を無料頒布)
その他	展覧会ごとに出品リストを作成し、来館者へ無料頒布したほか、解説動画を作成し、館内での放映やウェブでの公開を行った。特別展『無冠の仏像』および『梅原龍三郎と伊豆』は作品解説と論考を収録した展覧会図録を作成し、希望者には販売した。

## 8. その他目的を達成するために必要な事業(定款第5条第7号)

地域の教育文化の向上を目的として、今年度も高校生以下は年間を通して無料とした。静岡県内全児童を対象とした事業「キッズアートプロジェクトしずおか」に協力を行った。

また、小中学生、高校生を対象とした出張授業や授業入館、学芸員を目指す学生を対象にした博物館実習、教職員の外部研修受け入れも継続して実施した。

その他にも、静岡県博物館協会事業推進グループのほか、市町の文化財保護審議会委員を学芸員がつとめ、地域文化向上に寄与した。

### (1) 学校教育との連携

今年度も以下の学校教育との連携をはかった。出張授業は、主に伊豆地域の小・中学校、高校から依頼があり、奈良・京都方面の修学旅行の事前学習や、美術鑑賞教育を行った。なお新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、県内島田市の六合中学校はオンラインでの授業を行った。

また今年度も昨年度に続き、静岡文化芸術大学と提携し、学芸員資格の取得を目指す学生の博物館実習受け入れを行ったほか、大学で博物館学の出張授業を実施した。静岡文化芸術大学とは今後も継続して学生の実習受け入れを行うことを予定している。

- ・ パスポート入館者 合計 148 名
- ・ 出張授業 8 校(9 回) 合計 617 名
- ・ 授業入館 6 校(8 回)、1 園(1 回) 合計 400 名
- ・ 教員研修 11 名(下田市立白浜小学校美術鑑賞教育研修)
- ・ 博物館実習 7 名(静岡文化芸術大学、文星大学)
- ・ 職場体験 4 名(静岡県立松崎高校、静岡県立伊東高校城ヶ崎分校)

(2) 美術館の安定的、継続的な事業運営を目指して、中長期計画の検討を昨年度より実施している。開館以来、仏教館は 39 年、近代館は 22 年が経過し、今後、具体的な建物の修繕計画等が必要となるため、耐震調査、地盤調査、インフラ調査、館内環境測定を行い、建築コンサルタントとともに現状の把握と将来計画を検討した。2021年



度末にはこれらの調査にもとづき、近代館の修繕に必要となる予算積立を開始した。

### (3) その他

地域文化への貢献として、田島整主任学芸員が引き続き下田市、伊東市、河津町、南伊豆町、富士市の文化財保護審議会委員として各市町の文化財指定や文化財保護に関わった。町史編纂事業では、河津町史編纂委員会で副委員長をつとめ、河津町史編纂事業に携わった。また南伊豆町史編纂委員の活動も行った。

土森智典主任学芸員は昨年度に引き続き、静岡県博物館協会の事業推進グループに参加し、静岡県内の美術館・博物館等との連携構築、講習会の開催や災害時の加盟館・園の協力体制の整備を行った。

以上